

日赤大分県支部の事業は、県民の皆様からお寄せいただく 社資(活動資金)によって支えられています

2017
12 10 11
SUN MON

赤十字の国内災害救護活動

九州八県支部合同災害救護訓練を大分で開催しました!

12月10日、九州の赤十字職員が大分県に集結し、南海トラフ大地震を想定した訓練を行いました。県や消防などの行政機関や地元の消防団、傷病者役として活躍した学生ボランティアなど総勢300名以上が参加した訓練の一部始終をご紹介します。



様々な関係機関から相次ぐ問い合わせに対応
テレビカメラの取材もありました



9:00 大分市や佐伯市などで震度6強の地震が発生

日赤大分県支部事務室に災害対策本部立ち上げ。
県内の赤十字病院、血液センターの被害状況把握と同時に、九州各県へ支援を要請します



10:03

県内の赤十字施設や九州各県から災害対策本部の支援職員が
続々と到着



10:20

各地から参集した支援職員へ現在の状況をブリーフィング。短時間で的確に
情報共有を行います



10:49

災害対策本部の支援のほか、医師や看護師、事務職員から構成
される救護班も到着

支援を受ける側(受援)の体制
づくりも訓練の大きな目的です。

災害対策本部では引き続き情報収集と関係機関との調整を継続。
救護班は被災エリアに向かい、傷病者の医療にあたります。



13:00 救護所エリアでは、医師や看護師らがけが人の手当を

救護訓練の会場となる大分スポーツ公園では赤十字、DMAT、防災機関と共同で90人を超える傷病者の手当を行います。



翌日は職種別に検討会を行い、県境を越えた赤十字のネットワークを活かした災害対応のあり方を検証。来年は佐賀県を会場に、更なる連携強化に努めます。

担当者の声

迅速に、的確に、被災者を支援するためには日ごろの訓練が何よりも重要。今回の訓練で明らかになった課題点を解消し、よりよい救護体制を確立して期待に応えたいと思います。
(事業推進課 川野 祥吾 事業推進係長)

2017
11 16
THU

九州八県赤十字大会を沖縄県宜野湾市にて開催



平成30年度九州八県赤十字大会受章者募集
開催日程：平成30年11月
開催場所：熊本県
募集期間：平成30年7月31日(火)まで

平成29年11月16日(木)、日本赤十字社名誉副総裁である寛仁親王妃殿下のご臨席のもと標記大会が開催されました。

この式典では、赤十字へ多額の活動資金の協力や、ボランティア活動に功労のあった207名(個人・法人)が壇上で表彰され、うち大分県からは33名が有功章及び感謝状を授与されました。

式典後には、アトラクションとして、地元高校の郷土芸能部が「歓待の舞」や「エイサー」などを披露され、拍手喝采にて幕を閉じました。

来年度は熊本県で開催される予定です。



大会参会条件

日赤大分県支部への活動資金として1度に20万円以上の寄付をしていただける個人・法人様に壇上にて有功章や感謝状などの表彰を受けていただきます。

※大会参会に対する旅費は、当支部が負担いたします。
(付添者は自己負担にてお願いしております。)

詳細は、日赤大分県支部総務課へお問い合わせください
TEL: 097-534-2236

東日本大震災から7年…

「私たちは、忘れない」～未来につなげるプロジェクト～



このプロジェクトは、過去の大災害を忘れることなく、将来の災害に対する防災・減災意識の向上を目指し、3月1日から31日まで全国で展開します。日本赤十字社は、これまでに全国で36,022校もの学校に防災教育を普及してきました。

地震や豪雨、台風によってたて続けに災害に遭った県内でも、約500もの学校に「まもるいのち ひろめるぼうさい」のテキストを配布してきました。また、保護者と子で学べるよう、授業参観での防災プログラムなどにも赤十字職員やボランティアが実際に出向いて講座を行っています。そして、これからもつづけていきます。

ありがとう



青少年赤十字加盟校である、唐津市立浜玉中学校(佐賀県)の生徒より、熊本・大分地震災害被災者に向けた年賀状が寄せられました。日赤大分県支部は、これらを由布市の赤十字窓口である福祉課に贈呈し、庁舎に掲示していただきました。



大分県内でも、学校のふれあいPTAなどに職員やボランティアを派遣し、非常炊き出しの実演などを行っています